

第7回選定委員会議事概要

(第18回物質・生命科学研究施設利用委員会との合同開催)

- 1 日時：平成25年10月28日(月)13:00～17:20
- 2 場所：TKPガーデンシティ竹橋 ホール10E
- 3 出席者：[委員] 福山秀敏(委員長)、金谷利治(委員長代理)、赤井俊雄、秋光純、岸本直樹、佐藤卓、柴山充弘、杉山正明、西島和三、高田昌樹、寺倉清之、林眞琴、山口敏男
[一般財団法人総合科学研究機構(以下、CROSSと略称)] 藤井保彦、佐藤淳一
[オブザーバー：文部科学省] 工藤雄之、渡辺真朗
[オブザーバー：J-PARCセンター] 加藤崇、新井正敏、瀬戸秀紀
[オブザーバー：CROSS] 西谷隆義、三國晃、箱田正男、佐藤正俊、福嶋喜章、鈴木淳市、山下利之、勢司 康雄
[事務局] 佐藤淳一(兼)、太田淳子
(以上、敬称略)
- 4 議事次第：
 1. 開 会
 - (1) 挨拶 (J&C)
文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課 量子放射線研究推進室
室長 工藤 雄之 氏 (J&C)
一般財団法人総合科学研究機構 理事長 西谷 隆義 (C)
 - (2) ハドロン実験施設における事故を受けた対応について
J-PARCセンター長 池田 裕二郎 (J&C)
 - (3) 前回議事録の確認 (J,C)
 2. 審議事項
 - (1) 平成25年度下期(2013B期)一般課題審査結果報告と審議
 - ① 課題審査状況についての説明 (J&C)
 - ② ミュオン一般課題審査結果報告と審議 (J)
 - ③ 中性子課題審査結果報告と審議
 - 1) 一般課題審査結果報告と審議 (J,C)
 - 2) トライアルユース課題審査結果報告と審議 (C)
 - 3) 特定中性子線のうちの研究者等の共用に供する部分の利用に関する承認申請について(C)
 3. 報告事項
 - (1) 平成26年度上期(2014A期)課題公募案内 (J,C)
 - (2) J-PARC/MLFの現状報告 (J&C)
 - (3) 茨城県BLの現状報告 (J&C)
 4. その他
 - (1) 意見交換 (J&C)
 - (2) 次回の開催について (J&C)

5. 閉 会

但し、選定委員会の議事は C、物質・生命科学研究施設利用委員会（以下、MLF 施設利用委員会という。）の議事は J と記載した。

審議は両委員会で明確に分けて行われ、この議事録は上記議事次第に (C) 及び (J, C ; 同一議事題名だが分けて審議) (J&C ; 同一議事題名で合同での説明、意見交換) と記載した議事のみを対象としている。

5 配布資料リスト

合同会議進行表

- J&C 資料 1-1 ハドロン実験施設における事故を受けた対応について
- J 資料 1-2 第 17 回物質・生命科学研究施設利用委員会議事録（案）
- C 資料 1-3 第 6 回選定委員会議事概要（案）
- J&C 資料 2-1 Role of NSPRC and PEC(2013B)
- J&C 資料 2-2 Estimated available beam time and beam power
- J&C 資料 2-3-1 2013B 期ビームタイム配分日数表
- J 資料 2-3-2 2013B 期ビームタイム配分日数表（茨城県 BL）
- J&C 資料 2-4 MLF 課題申請件数の推移
- J&C 資料 2-5 分科会大分類・小分類表
- J&C 資料 2-5-1 2013B 期中性子申請課題 BL 毎分科会・研究分野分類
- J&C 資料 2-5-2 2013B 期ミュオン申請課題 BL 毎分科会・研究分野分類
- J&C 資料 2-6 2013B 期課題申請・採択状況
- J&C 資料 2-7 レフェリースコア分布
- J 資料 3-1 MSPRC Agenda
- J 資料 3-2 2013B 期ミュオン一般課題審議結果
- J 資料 3-3 Minutes of MSPRC
- J&C 資料 4-1 NSPRC/PEC Agenda
- J&C 資料 4-2 2013B 期中性子一般課題審議結果一覧
- C 資料 4-3 2013B 期トライアルユース課題審議結果一覧
- J&C 資料 4-4 Minutes of Sub-committees and Expert Panels
- J&C 資料 4-5 Minutes of NSPRC/PEC (draft)
- C 資料 5 特定中性子線のうちの研究者等の共用に供する部分の利用に関する承認申請書（案）
- J&C 資料 6-1 課題審査スケジュール_2014A
- J&C 資料 6-2-1 2014A 期 J-PARC 物質・生命科学研究施設（MLF）実験課題公募のお知らせ
- J&C 資料 6-2-2 Announcement of the J-PARC・MLF General User Program for 2014A
- J&C 資料 7-1 Status of J-PARC MLF
- J&C 資料 7-2 Status of Ibaraki Prefecture beamlines

6 議 事

1. 開会

佐藤 CROSS 利用推進部長が、選定委員会の出席者が定足数に達しており選定委員会が成立する旨の宣言をした。

(1) 挨拶

工藤文部科学省量研室長よりご挨拶があり、「ハドロン実験施設事故後の J-PARC の再開は見えていない中、2013B 期の課題審査を行なうが、科学、産業に将来有望な課題を選定いただき、我が国さらには人類の為になるよう成果を創出していくことで世間にアピールをしていってほしい。」とのコメントをいただいた。つづいて西谷 CROSS 理事長から「選定委員会委員の任期は 2 年であるが、大所高所からのご意見をよろしくお願ひしたい。」との挨拶があった。

(2) ハドロン実験施設における事故を受けた対応について

池田 J-PARC センター長が、資料 1-1 に従ってハドロン実験施設事故から半年後の現在の対応状況を説明した。

質問：緊急時の対応に” J-PARC センター長の情報発信” とあるが、これは JAEA の理事長や KEK 物構研究所長の判断を待たずに J-PARC センター長だけの判断で行うのか。

回答：緊急時の情報発信はその場にいる最高責任者が判断を行う。規程の中に理事長や物構研究所長の判断を待つという記載はない。

意見：J-PARC は世界の同様の施設に比べると人員がひっ迫しているように見えるが、日常の安全を担保するためにもう少し人を増やしていった方がよいのではないか。

回答：安全専門の人がいればよいという問題ではなく、一人一人が適切に動くことができるということが重要である。今の人員で最大の効果を出せるような組織強化を目指していく。

質問：今日の説明は事故後の対応が主であったが、事故が起こった原因とその対応については今後公になるという理解でよいか。

回答：事故の背景となった要因については現在第三者による事故原因調査チームが調査中で、近くその結果が出る。しかしそれには個人的な内容も含まれるため、最終報告をどういう形でまとめてどのように公表するかということには注意を要する。

(3) 前回議事録の確認

福山委員長より第 6 回選定委員会議事概要（案）（資料 1-3）の確認の要請があった。

[結果]

第 6 回選定委員会議事概要（案）は承認された。

2. 審議事項

(1) 平成 25 年度下期（2013B 期）一般課題審査結果報告と審議

① 課題審査状況についての説明

瀬戸 MLF 副ディビジョン長が、資料 2-1～2-7 に従って 2013B 期の申請課題及び審査状況の概要について説明した。

③ 中性子課題審査結果報告と審議

1) 一般課題審査結果報告と審議

2) トライアルユース課題審査結果報告と審議

山口利用研究課題審査委員会委員長が、資料 4-1～4-5 に従って一般課題およびトライアルユース課題の審査結果及び、利用研究課題審査委員会が出された以下の意見や提案について報告した。

・2013B 期にもし運転されなかった場合には、今回の審査を無駄にしないために、例えば 2014A 期のビームタイムの一部で 2013B 期の課題を実施する等の対応をこの上位委員会で審議して欲しい。

・2013B 期は一般課題枠のビームタイムが少ない。そのため課題ごとに配分するビームタイムを短縮して多くの課題を採択するという考え方もあるが、短縮するとよいサイエンスができなくなるとの意見があったため、利用研究課題審査委員会では出来るだけビームタイムを短縮しない方針で採否を決

めた。

・課題申請書について、審査に必要な内容が十分に記述されていない申請書があった。採択通知書で当該申請者に委員会コメントとして返すなどして指導できないか。また技術審査結果が採択通知書に記載されていないが、記載するべきだという意見があった。

質問：レフェリーコメントが記載されていない場合のレフェリースコアの取り扱いについて、5点でコメントがない場合はスコアを無視する等の決まったルールがあるのか？

回答：分科会で、申請書や他のレフェリーのスコアやコメントをもとに、そのスコアが適当であるか判断している。決まったルールとして機械的に行ってはいない。レフェリーがコメントを書いてくれなかったりコメントが短かったりすることについては、今までも対策を検討してきたがまだ有効な対策を見つけることができていない。

[結果]

一般課題及びトライアルユース課題審査結果は承認された。

3) 特定中性子線のうちの研究者等の共用に供する部分の利用に関する承認申請について藤井 CROSS 東海事業センター長が、資料5に従って共用ビームラインの CROSS 職員の文部科学省への12条枠利用申請（案）について説明した。

[結果]

12条枠利用申請（案）は承認された。

4) その他各分科会への申請課題のトレンド等

さらに神山 MLF 施設利用委員会委員が、2013B 期の各分科会への申請課題の研究動向や特にスコアの高かった課題について、さらに分科会開催の状況などについて報告した。

意見：今回このようなエグゼクティブサマリーがあったことはよかったが、採択結果の承認を取る前に報告されるべきであった。何に対して承認するかという時に、まずエグゼクティブサマリーがありその補足として点数表があると考えの方がわかりやすいのではないか。

意見：以前に点数表ではなくサイエンスをメインにすると決めたはず。

回答：選定委員会の資料は、委員会での意見を反映させながら徐々に改善しているところである。今回は BL 毎にどういう研究分野の課題がありどの分科会に申請されているかという表とグラフを用意し、さらに各分科会と山口委員会での議論の Minutes も付けている。次回はこれらをまとめたエグゼクティブサマリーを、全 MLF ビームラインに関してまとめて選定委員会だけではなく MLF 施設利用委員会に対しても議事資料として準備できるよう、関係者と相談する。

回答：今回はサイエンスがわかるようにということを念頭に置いて資料の準備をしたつもりであったが、まずエグゼクティブサマリーが最初にあるべきとの指摘はもっともであり、次回はそのように準備をしたい。

3. 報告事項

(1) 平成 26 年度上期 (2014A 期) 課題公募案内

瀬戸 MLF 副ディビジョン長が、資料 6-1、6-2-1、6-2-2 に従って 2014A 期の課題審査スケジュールおよび公募要領について報告した。さらに藤井 CROSS 東海事業センター長が、元素戦略課題と連携利用課題について、共用ビームラインだけでなく MLF の全ビームラインで対応するようにしたために今までと変更になった事項について補足説明をした。

質問：公募要領を見た限りでは、元素戦略課題を一般課題で受け付けるということが明記されていないように見えるが、どこに書いてあるのか。

回答：別紙に詳しく説明している。

(2) J-PARC/MLF の現状報告

新井 MLF ディビジョン長が、資料 7-1 に従って MLF の現状について報告した。

質問：ターゲット部分でヘリウムバブルができてきているということだが、モニターしているのか？

回答：常時レーザーでモニターしている。また使用済みのターゲットを切り出し調査して実績としてのデータも集めている。

4. その他

(1) 意見交換

① 2013B 期に実施できなかった課題の救済について

意見：今回採択率が低くなったため高得点でも不採択となった課題についての対応として、審査結果を早く申請者に知らせて 2014A 期に申請してもらうよう促す。

意見：運転日数が予定の 38.5 日から減ってしまった場合については、2013B 期に採択された課題は実施するという事で施設側に対応を検討して欲しい。

② 一般論としてのキャリアオーバーについて

意見：施設側の理由で実施できなかった場合は、次の期までキャリアオーバーする等の対応を今後検討して欲しい。

(2) 次回の開催：平成 26 年 2 月前半を予定。

5. 閉 会